CALLERLAB

アプリケーション検討委員会（ARC）の

検討結果

CALLERLAB

The International Association
of Square Dance Callers

改訂版　M

2012年5月16日

CALLERLAB
200 SW 30th Suite 104
Topeka, KS 66611
（785）783-3665

以下に、2005年8月22日以降に行った変更を示す。 変更点は以下のとおり。

変更日	変更の内容
08/22/2005	理事会が資料を承認した。
09/28/2005	2000年1月のプレス リリースで公開した、アプリケーション検討委員会(ARC)検討結果を追加した。 (チェイン ダウン ザ ライン、 スピン チェイン スルー、 スウィープ ア クォーター、ズーム
07/12/2006	2006年8月のプレス リリースで公開した、アプリケーション検討委員会(ARC)検討結果を追加した。 (3／4 タッグ隊形からのトレイド バイ、ダブル パス スルー隊形からのセンターズ ズーム、パラレル ウエブでのスリップ ザ クラッチ、ツー フェイスト ラインからのリレイ ザ ドゥ シー、タイダル ウエイブからのリニア サイクル、3／4 タッグ隊形からの トリプル トレイド、二つのミニ ウエイブに挟まれたオーシャン ウエイブからのトリプル トレイド)
08/18/2006	再構成
04/26/2007	トレイド バイ (2004年9月/10月)の記述より、重複行を削除
12/13/2007	3ページの改訂情報を修正
06/22/2008	DIRECTION(訳者注:CALLERLAB会員向け機関誌)2008年速報で、報告されたARCの投票結果を追加した。; (オール エイト サーキュレイト コオーディネイト, クロスファイアー、 リレイ ザ ドゥシィ, スピン チェイン スルー、 スピン チェイン ザ ギアーズ, スピン チェイン アンド エクスチェンジ ザ ギアーズ、 チェイン リアクション、トランスファー ザ カラム、 オール エイト ターン アンド ディール、 チェック メイト ザ カラム、 オール フォー カプルズ ドー サ ドー, オール フォー カプルズ ボックス ザ ナット、 オール エイト スピン チェイン スルー)
07/29/2008	ARCの票決を追加。アラモ リングからの、ボーイズ ラン、ダブル パス スルーが終わった隊形から、女性がピール オフした後の、トランスファー ザ カラム、インバーテッド ラインからのミニ ビジー
07/30/2008	ミニ ビジーのスペルを訂正
07/31/2009	2009年7月/8月付けDIRECTIONで発表されたARCの票決を追加。スリップ ザ クラッチの後のシュッツ ザ ザー(Slip the Clutch to a Shoot the Thar)、リレイ ザ ドゥシィ(Relay the Deucey)の分割、フェイシング ラインからのティーカップ チェイン、センターズ ボックス カウンター ローテイトの後のモチベイト
07/13/2011	7月-8月版 DIRECTION にて発表されたARCの票決を追加した。:サーキュレイト(ダブル パス スルー隊形から); スプリット サーキュレイト(ツー フェイスト ラインから); タッグ ザ ライン(オーシャン ウエイブから); トレイド ザ ウエイブ(アラモス タイルやザー隊形から); コオーディネイト(フェイシング ラインから)。
09/09/2011	先のザー隊形からのトレイド ザ ウエイブ(Trade the Wave)についての結果を訂正。
01/30/2012	2008年6月にスクエア スルーにあった訂正(動作の定義の書き換えがあった)を追加。
05/16/2012	索引とページを追加。 DIRECTION速報2012で、報告されたARCの投票結果を追加した。; (チェイン ダウン ザ ライン、ドー パソー、スイープ 1／4、ロール、リサイクル)

『原典は、2012年1月30日付で、International Association of Square Dance Callers(CALLERLAB)が、プレス リリースの形で2000年から2011年にかけて発表してきたApplication Review Committee (アプリケーション検討委員会)の、判断した内容の報告集である。下の英文「著作権表示(Copyright Notice)」にもあるように、この翻訳も著作権がCALLERLABにあることを明示すれば、コピーの作成、配布については、何らの制限がつけられていない。 また、日本語への翻訳の許可は、2012年5月17日付で、International Association of Square Dance Callers (CALLERLAB)より、得ている。

2012年5月　　翻訳責任　　CALLERLAB会員　久力　義之 』

© Copyright 2005-2012 by CALLERLAB Inc., The International Association of Square Dance Callers. Permission to reprint, republish, and create derivative works without royalty is hereby granted, provided this notice appears. Publication on the Internet of derivative works without royalty is hereby granted provided this notice appears. Permission to quote parts or all of this document without royalty is hereby granted, provided this notice is included. Information contained herein shall not be changed nor revised in any derivation or publication

目　　次

経緯（History）	5- 6
エーシー デューシー （Acey Deucey）	6- 1
オール フォー カプルズ ボックス ザ ナット（All 4 Couples Box The Gnat）	6-23
オール フォー カプルズ ドー サ ドー（All 4 Couples Do Sa Do）	6-32
オール エイト スピン チェイン スルー（All 8 Spin Chain Thru）	7- 1
オール エイト ターン アンド ディール（All 8 Turn and Deal）	7- 9
オール エイト サーキュレイト （All Eight Circulate）	7-18
キャスト ア シャドウ （Cast A Shadow）	7-28
チェイン ダウン ザ ライン （Chain Down the Line）	7-35
チェイン リアクション（Chain Reaction）	8- 9
チェックメイト ザ カラム（Checkmate the Column）	8-16
サークル トゥ ア ライン （Circle to a Line）	8-30
サーキュレイト ファミリー （Circulte Family）	8-38
コオーディネイト（Coordinate	9-36
カートシー ターン （Courtesy Turn）	10-24
クロスファイヤ （Crossfire）	10-31
ダイアモンド サーキュレイト （Diamond Circulate）	11-19
ドウ パソウ（Do Paso）	11-32
フォールド ファミリー （Fold Family）	12- 4
フォロゥ ユア ネイバー （Follow Your Neighbor）	12-12
ハーフ タッグ ザ ライン （Half Tag the Line）	12-18
レフトの概念 （Left Concept）	12-27
リニア サイクル （Linear Cycle）	12-37
ロード ザ ボート （Load The Boat）	13- 6
ミニ ビジー（Mini Busy）	13-14
ミックス （Mix）	13-22
モチベイト （Motivate）	13-32
パス ジ オーシャン （Pass the Ocean）	14-17
ピン ポン サーキュレイト （Ping Pong Circulate）	14-24
プラマネイド ファミリー （Promenade Family）	15-16
リレイ ザ ドゥシィ （Relay the Deucey）	15-26
リバースの概念 （Reverse Concept）	15-39
（エニシング アンド） ロール （（Anything） and Roll）	16-12
リサイクル（Recycle）	16-28
セパレイト （Separate）	17-10
シュツ ザ スター（Shoot the Star）	17-18
スリップ ザ クラッチ （Slip the Clutch）	17-28

スピン チェイン スルー （Spin Chain Thru） 17-36
スピン チェイン ザ ギアーズ （Spin Chain the Gears） 18-14
スピン ザ トップ （Spin the Top） 18-27
スクエア スルー （Square Thru） 18-37
スター スルー （Star Thru） 19-23
スウィープ ア クォーター （Sweep A Quarter） 19-37
タッグ ザ ライン （Tag the Line） 21-13
ティーカップ チェイン （Teacup Chain） 21-28
トレイド バイ （Trade By） 22-23
トランスファー ザ カラム （Transfer the Column） 22-36
トリプル トレイド （Triple Trade） 23-21
ズーム（Zoom） 23-33

コーラーラブ アプリケーション検討委員会検討結果
（改訂版 M － 2012年5月）

経緯(History)

コーラーラブの理事会は、1998年にスクエアダンス コールの「使い方が適切であるか、適切でないか」を検討する、アプリケーション検討委員会（以下ARCと略す。）の編成を承認した。
委員会は、世界中の経験豊かなコーラーによって構成し、コーラーやダンサーから書面で寄せられた問い合わせを検討し、コールの使い方が、適切であるか否かを判断する。 また、ARCに所属するすべてのコーラーは、ARCの判断に従うことに同意している。

ARCは、自発的に行動を始めるというより、受動的である。ダンサーや、コーラーからの「定義(Definition)」や、「アレンジメント(Arrangement)」について、「使い方が適切か、否か」の質問を受けて、使い方の妥当性を検討する。

ARCへの質問状の提出

ARCへの質問は、コーラーラブ事務局へ書面により提出する。

住所は

200 SW 30th St., Suite 104, Topeka, KS 66611 U.S.A.
.電話 1-785-783-3665； ファックス 1-785-783-3696；
E-mail -- CALLERLAB@aol.com.

当委員会は、定期的に、ARC宛て(あて)に提出のあったすべての質問を、調査、討議し、委員会としての判断を出す。そして、結果はプレス リリースの形で公表する。

判断

ARCによるすべての判断は、以下のページのようにアルファベット順に集約してまとめた。
また、当委員会では、コールの使い方が、「妥当であるか、否か」についての質問に、今後も検討を続けていくつもりだ。
我々は、ARCによる判断が、コールの不適切な使い方を減らすことに、大きく貢献できると確信している。

エーシー デューシー (Acey Deucey)

(2003年8月)

質問: エーシー デューシー(Acey Deucey)を、3/4タッグ隊形(3/4 Tag Formation)から、コールしても良いか?

回答: ***いいえ。*** *質問のコールには、「誰(だれ)がセンターになるのか?」ダンサーが決めかねる曖昧(あいまい)さがある。 センター ウエイブの中には、センターズ(Centers)と、エンズ(Ends)がいる。このことがダンサーの混乱を招く。(訳者注: 2005年12月1日付けの定義変更により、ARCはこの判断を2006年7月に破棄している。この項を参照。)*

(2004年9月/10月)

質問: ツイン ダイアモンドやパラレル ダイアモンド(Twin/Parallel Diamonds)隊形から、エーシー デューシー(Acey Deucey)をコールできるか?

回答: ***妥当だ。*** *定義に沿っている。 ダイアモンド隊形のポインツにいる人は、端にいる人で、中央にいる人は、センターだ。*

(2006年7月)

質問: 3/4 タッグ隊形からエーシー デューシーと、コールするのは妥当か?

回答: ***妥当だ。*** *当委員会は委員の投票で現時点では、妥当なコールだと票決した。*
新しい定義(訳者注:2005年12月1日付で変更された。)で、「四人のセンターと、四人の外側ダンサー(four centers and four outside dancers)がいる」ケースとして、この使い方を許している。定義の変更により、ARCは、今までの判断を破棄した。

オール フォー カプルズ ボックス ザ ナット (All 4 Couples Box The Gnat)

(2008年6月)

質問: スタティック スクエア隊形から、「オール フォー カップルズ ボックス ザ ナット (All 4 Couples Box The Gnat)」がコールされた。これはCALLERLABのA-2の定義に記述されている条件を満たしているか?

回答: ***妥当だ。*** *当委員会では、A-2では妥当だと票決したが、コーラーもダンサーも注意が必要だ。ダンサーは動作の終わりの位置に戻っていないとならないが、周囲の他のダンサーに注意を払う必要がある。終わりの隊形は、向かいの人の位置で、スタティック スクエア隊形。*

オール フォー カプルズ ドー サ ドー (All 4 Couples Do Sa Do)

(2008年6月)

質問: スタティック スクエア隊形から、「オール フォー カップルズ ドー サ ドー(All 4 Couples Do Sa Do)が、コールされた。これは、コーラーラブの記述されたA-2の定義に合っているのか?

回答: ***妥当だ。*** *当委員会では、妥当だが、注意が必要だと票決した。この使い方は、定義には沿ってはいるが、上手(うま)く踊れないし、危険なので推奨できない。終わりの隊形は、スタティック スクェア隊形。*

オール エイト スピン チェイン スルー（All 8 Spin Chain Thru）

（2008年6月）

質問： ザー隊形（Thar Formation)から、「オール エイト スピン チェイン スルー（All 8 Spin Chain Thru)」がコールされた。これはコーラーラブのA-2の定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： ***いいえ。****当委員会では、この使い方は、コーラーラブのどの定義をも満たしていないと、票決した。*

オール エイト ターン アンド ディール（All 8 Turn And Deal）

（2008年6月）

質問： ザー隊形（Thar Formation)から、「オール エイト ターン アンド ディール（All 8 Turn And Deal)」が、コールされた。これはコーラーラブのA-1の定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： ***はい。****当委員会は妥当だと票決した。しかしA-1では、ワークショップ無しに使うべきではない。A-2では、ワークショップ無しでも妥当な使い方だ。終わりの隊形は、スタティック スクエア上のミニ ウエイブ(Mini Wave)だ。*

オール エイト サーキュレイト（All Eight Circulate）

（2008年6月）

質問： ダブル パス スルーの終わった隊形（Completed Double Pass Thru Formation)から、「オール エイト サーキュレイト（All Eight Circulate)」がコールされた。これはコーラーラブのベーシックの定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： *答えは**いいえ。**これはベーシックの定義には合っていない、がC-1あるいはそれ以降のプログラムでならば妥当だ。チャレンジの定義にある、16マトリックスの条件を満たしている。終わりの隊形は、遠く離れた、右手ルール(right hand rule)（訳者注：「同一位置のルール（Same Positon Rule)」のこと。）の適用されたオーシャン ウエイブになる。*

キャスト ア シャドウ（Cast A Shadow）

（2005年7月/8月）

質問： 外向きの、背中合わせのライン（out facing, back to back lines)から、「キャスト ア シャドウ（Cast A Shadow)」を、コールしても良いか？

回答： ***不適当だ。****定義では明確に、「エンド ダンサーは、**タンデム**（訳者注：Tandem：二人が前後に並んだ形）でなければならない。」と、している。質問のケースは、定義を逸脱している。*

チェイン ダウン ザ ライン（Chain Down the Line）

（2000年1月）

質問： 「チェイン ダウン ザ ライン3/4（Chain Down the Line 3/4)」は、女性がセンターにいる1／4タッグ隊形からの「チェイン ダウン ザ ライン（Chain Down the Line)」コールの拡張と考えて

も良いか？ また、「T ボーン隊形のライン」や「ダイアモンド隊形」からでは？

回答： ***不適当だ。***

（2012年5月）

質問： 「3／4 チェイン ダウン ザ ライン（3/4 Chain Down the Line ）」は、受け入れられますか？

回答： ***いいえ。****ARCでは次のような判断を下した。「チェイン ダウン ザ ライン 3／4(Chain Down The Line 3/4)」と「3／4 チェイン ダウン ザ ライン（3/4 Chain Down the Line)」は同一のコールと考えられるので、2000年のARCの判断のとおり、どちらも不適当である。*

チェイン リアクション（Chain Reaction）

（2008年6月）

質問： I(アイ)隊形（I Formation)からの、「チェイン リアクション(Chain Reaction)」は、好ましいコールか？

回答： ***いいえ。****当委員会では、コーラーラブの記述された定義に合致していないので、不適当な使い方だと票決した。*

チェックメイト ザ カラム（Checkmate the Column）

（2008年6月）

質問： ダブル パス スルー隊形（Double Pass Thru Formation)から、「チェックメイト ザ カラム (Checkmate the Column)」が、コールされた。これはコーラーラブのA-2の定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： ***はい。****当委員会では、コーラーラブの記述されたA-2の定義に合致しているので、妥当な使い方だと票決した。*

質問： ダブル パス スルーが終わった隊形（Completed Double Pass Thru Formation)から、「チェックメイト ザ カラム (Checkmate the Column)」が、コールされた。 これはコーラーラブのA-2の定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： ***はい。****当委員会では、コーラーラブの記述されたA-2の定義に合致しているので、妥当な使い方だと票決した。終わりの隊形は、フェイシング ラインズ(Facing Lines)。*

サークル トゥ ア ライン（Circle to a Line）

（2004年9月/10月）

質問： ダブル パス スルー隊形（Double Pass Thru Formation）で、センターの4人が同性のとき、「センターズ サークル トゥ ア ライン（Centers, Circle to a Line）」のコールでは、誰（だれ）がサークルを断ち切るのか？

回答： ***不適当なコール****だ。定義では、「内側からスタートしたカップルのリード ダンサー（男性の位置）は、とっていた左手を離す。」と、なっている。質問の使い方では、これができない。*

サーキュレイト ファミリー (Circulate Family)

(2000年11月)

質問: ダブル パス スルー隊形(Double Pass Thru Formation)から、「スプリット サーキュレイト(Split Circulate)」をコールするのは、よいだろうか？

回答: ***いいえ。*** *技術的には妥当のようだが、「スプリット サーキュレイト(Split Circulate)」の拡張として使うべきではない。ダンサーに混乱を引き起こすのと、ボディ フローが良くないからだ。*
当委員会では、このような定義を拡張解釈した使い方で、ダンサーを慣れさせるのは、良くないことと考えている。また、スクエアダンス界が、このような方向に発展していくことを望んでいない。

(2000年4月)

質問: タイダル ウエイブ(Tidal Wave)からサーキュレイト(Circulate)をコールしても良いか？

回答: ***いいえ。*** *現在の定義を満たしていない。質問の使い方では、サーキュレイト パスが、明確でない。*
(訳者注; メイン ストリムの定義- 21 サーキュレイト ファミリー(21. Circulate Family)で、動作を始める隊形は、「ウエイブ、カラム、ライン そしてツー フェイスド ラインズ」となっている。)

(2011年7月)

質問: ダブル パス スルー隊形から、ダンサーがカラム上に留(とど)まっていることを期待しながら、コーラーは「真っすぐ前進してダブル パス スルーが終わった隊形(Completed Double Pass Thru)で終わるようにと。「オール エイト サーキュレイト、トワイス(All Eight Circulate, Twice)」とコールした。これは正しいか？

回答: *当委員会は、これはサーキュレイトの定義に沿っていないと判断した。一番目のサーキュレイトが終わったときに、ダンサーはパラレル ウエイブ(Parallel Wave)になるので、次のサーキュレイトもパラレル ウエイブで終わる。*
コーラーは素直に、「ダブル パス スルー(Double Pass Thru)」とコールすべきだ。

(2011年7月)

質問: ツー フェイスド ライン(Two Faced Line) からのコールは、「オール エイト スプリット サーキュレイト ダブル(All Eight Split Circulate Double)」だった。コーラーは、リーダー(Leaders)がパートナー トレイド(Partner Trade)をした後に、パス スルー(Pass Thru)を、トレイラー(Trailers)には、パス スルーをした後に、パートナー トレイド(Partner Trade)を期待していた。
これは正しいだろうか？

回答: ***いいえ。****これはコーラーラブのベーシック定義に従っていないので適切ではない。であるが、上に記述された動作は、アドバンスド プログラムでは、「ダンサーがコーラーの意図を理解している。」という前提で、「ドウ ユア パート(Do Your Part)」の長所をもちいて踊ることができる。*

コオーディネイト (Coordinate)

(2008年6月)

質問： フェイシング ライン隊形(Facing Lines Formation)から、「コオーディネイト(Coordinate)」が、コールされた。これはコーラーラブのプラスの定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： ***いいえ。****当委員会では、CALLERLABのどの定義にも合致していない、と票決した。使うべきではない。*

(2008年6月)

質問： スリー アンド ワン ライン隊形(3&1 Line Formation(訳者注:3人が同じ方向を向いていて、1人だけ反対を向いているライン隊形。)(エンズが中を見ていて、センターズが右手のミニ ウエイブ)で、「コオーディネイト(Coordinate)」が、コールされた。これはコーラーラブのプラスの定義に記述されている条件を満たしているか？

回答： *当委員会は、**妥当だ**と票決したが、スリー アンド ワン ライン隊形(3 & 1 Line Formation)かだけで、それ以外の、プラス、いやA-1若しくはA-2といえども、ワークショップ無しに使うべきではない。C-1では、妥当な使い方だ。*
終わりの隊形は、フェイシング ダイアモンド(Facing Diamond)。

(2011年7月)

質問： 2010年にコオーディネイトの定義が改訂されたが、フェイシング ライン隊形からのコオーディネイトは、新しい定義にかなっているか？

回答： *今でも、プラス プログラムでは**不適当だ。**プラス プログラムでは、「カラムからのみ(Column Only)」と制限しているからだ。*
定義の変更によって、アドバンスド プログラムでは妥当になった。名前もつけられていない例外的な隊形で終わるので、コーラーはこれを十分意識すべきだ。ベリーセンターの二人(Very Two Center Dancers)が、背中合わせで終わる「風変わりなダイアモンド(Weird Diamond)」と呼ばれている。

カートシー ターン (Courtesy Turn)

(2004年9月/10月)

質問： メインストリーム(MS)で、カートシー ターンを、男女の入れ替わったカップル(Half-Sashayed Couple)や、同性同士のカップル(Same Sex Couple)で行うのは、妥当か否か？

回答： ***不適当だ。****メインストリームの定義では明確に、「男性が左側、女性が右側に位置するカプルズで行う。」と、限定している。*

クロスファイヤ (Crossfire)

(2002年4月)

質問： 「クロスファイヤ(Crossfire)は、4人のダンサーに対するコールか？それとも8人に対してのコールか？

回答： *背中合わせの、4人のラインからの場合を除いて、常に4人に対するのコールだ。定義は明白だ。*

質問： 背中合わせの、4人のライン(back to back lines of four)から、「クロスファイヤ(Crossfire)」をコールするのは妥当か否か？

回答： ***妥当だ。***

質問： 妥当なら、どのプログラム レベルで？

回答： *プラス(Plus)だ。*

質問： 妥当なら、結果の隊形は「1/4　タッグ隊形(1/4 Tag Formation)」か？ それとも「ダブル パス スルー隊形(Double Pass Thru Formation)」か？

回答： *1/4　タッグ隊形(1/4 Tag)だ。 定義自身で説明している。*

(訳者注：定義には「トレイドが終わった後、センターのダンサーは、取っていた手を離して、一歩前に出て、向かいにいるダンサーとミニ ウエイブ あるいは、ウエイブをつくる。」とある。)

(2008年6月)

質問： フェイシング ダイアモンド隊形(Facing Diamond)から、「クロスファイヤ(Crossfire)」が、コールされた。この使い方は、コーラーラブのプラスの定義に記述された使い方に合っているのか？

回答： *委員会の票決は、「**いいえ**」だ。 しかし、A-1で、「ドゥ ユア パート オブ (Do Your Part of) 形式のコール」に、従うならば、妥当だ。終わりの隊形は、ティ ボーン ボックス(T-Bone Box)だ。*

ダイアモンド サーキュレイト (Diamond Circulate)

(2000年11月)

質問： ツー フェイスド ライン(Two Faced Line)から、「エブリボデイ ドゥー ユア パート オブ ア ダイアモンド サーキュレイト(Everybody Do Your Part of a Diamond Circulate)」を、コールしても良いか？

回答： ***はい。****ただし、アドバンスか、それ以上のプログラムで。*

余りにも多くのコーラーが、「ドゥ ユア パート(Do Your Part)」タイプのコレオグラフィーに、我を忘れている。

とても混乱を招きやすい動作で、要求しているタイミングも厳しく、トラフィック パターンにも、難しさがある。ただ、<u>正しいからといっても、良い動作とはいえない。</u>　不必要に複雑にすべきではない。なぜ、素直に、「ハーフ サシェイ、カップルズ ヒンジ(1/2 Sashay and Couples Hinge)」としないのか？

ドウ　パソウ(Do Paso)

(2012年5月)

質問： スタティック スクエア又はサークルから、「ドウ パソウ ターン パートナー レフト、 ターン コーナー ライト、 メン スター　レフト (Do Paso, turn partner left, corner right, men star left)と コールするのは妥当だろうか？　それとも不適当だろうか？　言葉を言い換えると、「ドウ パ

ソウ (Do Paso)の「分割」又は「分数」だが。

回答： ***不適切だ。****このコールは、分割されるべきではない。数ある伝統的なコールの一つでその本来の形が守られるべき物だからだ。*

フォールド　ファミリー (Fold Family)

(2004年9月/10月)

質問： アレンジメント＃1ないし＃2のライン(同性同士が手を取っている、男男女女又は女女男男のライン)から、「ボーイズ　クロス　フォールド(Boys Cross Fold)」　又は、「ガールズ クロス フォールド(Girls Cross Fold」のコールは？

回答： ***不適当だ。****現在発行済みの定義の、「クロス フォールドは、指示をされたダンサーが、二人ともセンターズか、若しくはエンズでなければならない。」を、満たしていない。*

フォロゥ ユア ネイバー (Follow Your Neighbor)

(2002年4月)

質問： 1/4 タグ隊形から、「フォロゥ ユア ネイバー」の使用は良いか？

回答： ***いいえ。*** *コーラーラブの定義を満たしていない。ボックス サーキュレイト隊形(Box Circulate Formation)で、行わなければならない。*

ハーフ タッグ ザ ライン (Half Tag The Line)

(2002年4月)

質問： 「ハーフ タッグ(Half Tag)」のコールの後、身体(からだ)の向きを指示するのは、妥当だろうか？

例えば、ライト、レフト、イン、アウト(Right、Left、In、Out)などと？

回答： ***妥当だ。*** *当委員会では、顔の向きを指示することが妥当なコールであっても、コーラーは、メイン ストリームや、プラスでは、ワークショップ無しに、「イン(In)や、アウト(Out)」を使うことは控えるべきだと、強く主張する。*

レフトの概念 (Left Concept)

(2004年9月/10月)

質問： どのプログラム　レベルで、ダンサーが「レフトの概念(Left Concept)」を知るべきか？

例えば、「リード レフト(Lead Left)」、「レフト　ターン　スルー(Left Turn Thru)」、「レフト ボックス ザ ナット(Left Box the Gnat)」、「レフト トレイド バイ(Left Trade By)」などで。

回答： *MSのダンサーは、質問のコールの内、「レフト トレイド バイ(Left Trade By)」以外は、ほとんど踊れるべきだ。ダンサーが、どのように動いてよいか、分からなかったり、初めて聴く コールだったりしたときは、ワークショップをする。「レフト」の分野に足を踏み入れるときは、経験豊かなコーラーの判断を活用する。余り入れ込みすぎないように。*

リニア サイクル (Linear Cycle)

（2006年7月）

質問： タイダル ウェイブから、「リニア サイクル(Linear Cycle)」とコールするのは、妥当か？

回答： ***はい。*** *二つのオーシャン ウエイブのエンズ同士がつながった隊形であり、定義の範疇(はんちゅう)にある。正しいコールの使い方であると判断した。*

ロード ザ ボート (Load The Boat)

（2003年8月）

質問： 「ロード ザ ボート」の動作を、分割しても良いか？

回答： ***はい。*** *定義は、センターズに対してもエンズについても共に、明確に四つの部分からなるとしている。 タイミングが本質的な問題だとも指摘している。コーラーはダンサーが、タイミングに注意を払うように、教える必要がある。また、エンド ダンサーが始めの三つの動作で、お互いに背中合わせで終わることも。*

ミニ ビジー (Mini Busy)

（2008年7月）

質問： エンズが外向きのインバーテッド ラインズ(End Out Inverted Lines) から、「ミニ ビジー(Mini Busy) 」がコールされた。これは、コーラーラブの記述されたA-2の定義に沿っているか？

回答： ***いいえ。*** *当委員会では、不適当だと票決した。*

理由： *ライン上に外向きのカップルズは、どこにもいないし、ライン上の真ん中の二人がエクステンド (Extend) するのも妥当な動きではない。*

ミックス (Mix)

（2000年11月）

質問： いろいろなダイアモンド隊形から「ミックス(Mix)」を、コールするのは、妥当であろうか

回答： ***妥当だ。*** *ただし、C-1以下で使わないように。アドバンスの定義の序、「場に、すべての隊形上の人が、存在しないとき。」の節で、この状況にふれている。しかし、当委員会では、「センターの人が、どこに向かって、クロス ラン(Cross Run)をしてよいのか 非常に分かりづらいのではないか？」、危惧(きぐ)している。「始めに、ワークショップをしないで、コールすべきではない。」というのは、全くその通りだ。また、経験豊かな多くのチャレンジ コーラーは、これらのコールをしていない。*

モチベイト (Motivate)

（2009年7月/8月）

質問： 平行なオーシャン ウエイブ(Parallel Ocean Wave)から、「センターズ ボックス カウンター ローテイト(Centers Box Counter Rotate)」の後で、「モチベイト(Motivate)」をコールするのは妥当か？

これは、コーラーラブの記述されたA-2の定義に沿っているか？

回答： ***いいえ。*** *スクエア ブレシング(Square Breathing - 訳者注：セットがあたかも呼吸しているかのよう*

に、膨らんだり縮んだりすること。)のために、一回目のサーキュレイト(Circulate)は、できない。しかし、コーラがすぐに、「センターズ ステイ センターズ(Centers stay centers)」と、(最初のサーキュレイトに対して)警告を与えた後ならば、これは妥当だ。このコールの使い方が機能するために、警告は的確に述べられなければならない。

ペア オフ (Pair Off)

(2003年8月)

質問: 以下のような隊形から、「ペア オフ(Pair Off)」をコールするのは妥当か

(イ) 外向きのライン(Lines Facing Out)から?

回答: いいえ。 定義にある、「向かい合ったダンサーズ」の条件を満たしていない。

(ロ) シングル ファイル ライト/レフト ハンデッド カラム(Single File Right or Left Handed Column)では?

回答: いいえ。 上と同じく、「向かい合ったダンサーズ」の条件を満たしていない。

(ハ) ダブル パス スルー隊形では?

回答: はい。ただし、中央にいるダンサー(Center Dancers)に対してだけだ。中央にいるダンサーだけが、コールを実行できる。

パス ジ オーシャン (Pass the Ocean)

(2002年4月)

質問: 「パス ジ オーシャン アンド ロール(Pass the Ocean and Roll)」は?

回答: **いいえ。** 定義で、「パス スルーの後、パートナーに向き合うように向きを変え、右手のウエィブ(Right Hand Wave)を作るように、前に出る。」とある。つまり、まっすぐ前に出た後に、ロールはできない。

ピン ポン サーキュレイト (Ping Pong Circulate)

(2000年11月)

質問: スタティック スクエアから、ヘッドが前に出てできる隊形(Step to a Wave)で、「ピン ポン サーキュレイト(Ping Pong Circulate)」をコールするのは、妥当か?

回答: **いいえ。**「バーレソンの百科事典(The Burleson Encyclopedia)」では、#2854 で、全く同じ動作を、「ピン ポン トレイド(Ping Pong Trade)」と、記載している。「ピン ポン サーキュレイト(Ping Pong Circulate)」は、使うべきでない。

定義では、「ピン ポン サーキュレイト(Ping Pong Circulate)」は、「1/4 タッグ隊形で開始し、そして終わる。」としている。疑わしい使い方は、直ちにやめるべきだ。

(訳者注: 「The Burleson Encyclopedia」とは、ビル バーレソン氏(Mr. Bill Burleson)の30年にわたる、スクエアダンス界における経験の集約物で、動作の定義や、コール、隊形などの記述が、長年にわたり集められており、「スクエアダンスの百科事典」ともいえる。1980年代に「アメリカン スクエア ダンス (American Square Dance)」誌に、管理を移管し、多くの人々の協力で、今なお内容の更新が行われている。2002年12月の版では、#5,125(Change the Tag)までに記述が増えている。「Burleson's Square Dancer's Encyclopedi

(2002年4月)

質問:　全体の動きを左手で行うことを期待して、左手の1/4 タッグ隊形(Left 1/4 Tag Formation)から、「レフト ピン ポン サーキュレイト(Left Ping Pong Circulate)」とコールするのは、良いか?

回答:　***いいえ。*** *「レフト(left)」という必要はないが、まだ、なじんでんでいないダンサーに対しての補助語として、「左手だ。(It's A Lefty)」のような言葉をつかっても良いだろう。i*

(2005年7月/8月)

質問:　1/4 タッグ隊形から、「ピン ポン サーキュレイト ワンス アンド ア ハーフ(Ping Pong Circulate 1 & 1/2)」のコールをした。コーラーは、ダンサーがパラレル ウエイブ(Parallel Wave)で終わることを期待している。正しい使い方であろうか?

回答:　***不適当だ。*** *今までに、多くのコーラによって、間違った使い方が教えられてきた。この動作は、分割すべきではない。定義では、「ダンサーは図に示した通り道にしたがって、一つ先の位置に進む。」となっている。*

プラマネイド ファミリー (Promenade Family)

(2005年7月/8月)

質問:　スタティック スクエアから、次のようなコールがされた。「ヘッド スクエア スルー スリー、フェイス ライト アンド シングル ファイル プラマネイド 1/4 (Heads Square Thru Three, Face Right and Single File Promenade 1/4)」。ダンサーは、シングル ファイルの隊形にとどまったままか?それとも中を向くべきか?

回答:　*最後の指示は、「シングル ファイル プラマネイド(Single File Promenade)」だったから、ダンサーは次の指示がされるまで、この隊形に止まるべきだ。定義では、「ダンサーは、指示のとおり、サークルの周りを前進する。」となっている。*

リレイ ザ ドゥシィ (Relay the Deucey)

(2006年7月)

質問:　ツー フェイスド ライン(Two Faced Line) から、「リレイ ザ ドゥシィ(Relay the Deucey)」をコールするのは妥当か?

回答:　***いいえ。*** *ARCでは不適当と判断した。定義で、「ハンド 又はアーム ターンズ(Hand/Arm Turns)で踊る」とある。パートナー トレイド(Partner Trade)の動作ではない。*

(2009年7月/8月)

質問:　リレイ ザ ドゥシィ(Relay the Deucey)を、分割するのは妥当か?
これは、コーラーラブの記述されたプラスの定義に沿っているか?

回答:　***いいえ。*** *定義は、リレイ ザ ドゥシィ(Relay the Deucey)が複数の部分から構成されているか、若干不明確ではあるが、明らかに二つ以上からは、構成されてはいない。*

リバースの概念（Reverse Concept）

（2004年9月/10月）

質問： どのプログラムで、ダンサーが、「リバースの概念（Reverse Concept）」を、理解していると考えたらよいか？

「リバース ロール アウェイ（Reverse Roll Away）」、「リバース ハーフ サシェイ（Reverse Half Sashay）」、「リバース ドー パソウ（Reverse Do Paso）」、「リバース サークル トゥ アライン（Reverse Circle to a Line）」、「イン リバース オーダー、ライト アンド レフト スルー（In Reverse Order, Right and Left Thru）」などであるが？

回答： *この種の使い方は、ダンサーがプラス　プログラムに、習熟できるまでは、期待してはいけない。と言っても、幾つかのコールは、MSやPlusでも使える。コーラーが、リバース コンセプト（Reverseの概念）を、使いすぎないように十分注意を払うという条件付きで。*

（エニシング アンド）ロール（（Anything）and Roll）

（2002年4月）

質問： 「パス ジ オーシャン アンド ロール（Pass the Ocean and Roll）」の使い方は、正しいか？

回答： ***いいえ。*** *定義では、「通り抜けた後、パートナーと向きあるように向きを変えて、前に出て、オーシャン ウエイブをつくる。」とある。**真っ**すぐ前に出た後に、「ロール」は、できない。*

（2012年5月）

質問： 「ヘッド リード ライト、サークル トゥ ア ライン アンド ロール（Heads Lead Right, Circle to a Line and Roll）」と、コールするのは、妥当だろうか？

回答： ***はい。*** *プラスの定義に沿ったダンサーが踊るのに**妥当**なコールです。*

「サークル トゥ ア ライン（Circle to a Line）」の他の踊り方が用いられるのなら、たぶんそれは妥当な踊り方では無いでしょう。「ロール（Roll）」ができるのは、「アーチ（Arch）」の下をくぐった端っこのダンサー（Very End Dancer）」だけだ。世界中でスタイリングの違いでこの定義に従わないコールには問題があるように見える。

コーラーの皆さん、「これは極端な使い方なのだ。」と注意を払ってくれ。

リサイクル（Recycle）

（2012年5月）

質問： フェイシング カップルズ（Facing Couples）の隊形から、アドバンスで、「リバース リサイクル（Reverse Recycle）」とコールするのは妥当か？

回答： ***はい。*** *これはアドバンスト プログラムの「リバースの概念（Reverse Concept）」にかなっているので妥当だ。*

ラン (Run)

(2008年7月)

質問: 隊形は、アラモ リング(Alamo Ring)。アレンジメントは、男性が隣り合い、女性が隣り合ってい皆、右手をとっている。ここでコールは、「ボーイズ ラン(Boys Run)」。コーラーの意図は、男性同士のトレイド (Boys Trade)。この使い方は、コーラーラブの記述されたベーシックの定義に合っているか？

回答: ***いいえ。*** *当委員会では、この使い方は妥当でないと票決した。*

理由: *この使い方は、記述された定義に合致していない。というのはランをして回る相手のインアクティブな ダンサー(Inactive Dancer)がいない。コールは、単純に「ボーイズ トレイド(Boys Trade)」とすべきだ。*

セパレイト (Separate)

(2004年9月/10月)

質問: エイト チェイン スルー隊形(Eight Chain Thru Formation)から、センターに対して、「セパレイト アラウンド ワン トウー ア ライン(Separate Around One to a Line)」とコールした。
正しいだろうか？

回答: ***妥当なコールではない。*** *ダンサーは、コーラーが望んでいる結果を得るためには、「セパレイト」を、二回行わなければならない。*

シュツ ザ スター (Shoot the Star)

(2009年7月/8月)

質問: ザー隊形からのコールで、スリップ ザ クラッチ(Slip the Clutch)の後(一人前に進み、その人と)、「シュツ ザ スター(Shoot the Star)」がコールされた。
またこの使い方は、コーラーラブの記述されたベーシックの定義に合っているか？

回答: ***はい。*** *委員会では、更に進んで「スリップ ザ クラッチ」(Slip the Clutch)の後も、ザー隊形は、維持される。」と裁定した。(訳者注: これはARCでの判断であって、すぐに定義が修正された訳ではない。)*

スリップ ザ クラッチ (Slip the Clutch)

(2006年7月)

質問: パラレル ウエイブ(Parallel Waves)から、スリップ ザ クラッチ(Slip the Clutch)をコールするのは、妥当か？

回答: ***いいえ。*** *定義で「スリップ ザ クラッチ(Slip the Clutch)は、ザー スター(Thar's)とロング ウエイ ザー(Wrong Way Thar's)と一緒に用いる。」と規定しているので、不適当だ。*

スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)

（2000年1月）

質問： アラモ リング隊形（Alamo Ring Formation）から、「スピン チェイン スルー（Spin Chain Thru）」とコールしても良いか？

回答： ***いいえ。***

（2002年10月/11月）

質問： 「リバース スピン チェイン スルー（Reverse Spin Chain Thru）」と、コールするのは、適当か。

回答： ***いいえ。*** *妥当な用語としては、「イン リバース オーダー（In Reverse Order）」だろうが、メインストリームやプラスでは、使うべきではない。この類（たぐい）の用語に徹底して、慣れ親しんだダンサーに対してだけ使うべきだ。*

（2008年6月）

質問： タイダル ウエイブ(Tidal Wave)から、スピン チェイン スルー（Spin Chain Thru）」と、コールするのは、妥当か。

回答： *この使い方は、コーラーラブの記述されている定義 に沿っていない。*

スピン チェイン ザ ギアーズ （Spin Chain the Gears）

（2008年6月）

質問： タイダル ウエイブ（Tidal Wave)から、「スピン チェイン ザ ギアーズ（Spin Chain the Gears)」とコールしても良いか？

回答： ***いいえ。****委員会は不適当だと票決した。この使い方は、コーラーラブの記述されている定義に沿っていない。*

（2008年6月）

質問： タイダル ウエイブ（Tidal Wave)から、「スピン チェイン アンド エクスチェンジ ザ ギアーズ（Spin Chain and Exchange the Gears)」とコールしても良いか？

回答： ***いいえ。****委員会は不適当だと票決した。この使い方は、コーラーラブの記述されている定義に沿っていない。*

スピン ザ トップ （Spin the Top）

（2002年10月/11月）

質問： 「リバース スピン ザ トップ（Reverse Spin The Top）」と、コールするのは、適当か？

回答： ***いいえ。****「バーレソンの百科事典（The Burleson Encyclopedia）」の＃190に、「リバース ザ トップ（Reverse The Top）」というのがあり、まさにこの動きを説明している。*
ARCで は、このコールが、「リバース ザ トップ（Reverse The Top）」の、ワークショップなしに使われるのならば、「イン リバース オーダー、スピン ザ トップ（In Reverse Order, Spin the Top）」とコールすべきだとの意見で一致した。加えて、この種の動作は、MSやPlusで使うべきでないと忠告する。よりよく理解する上で、まごつきやすく、難しさを伴うからだ。

スクエア スルー (Square Thru Family)

(2005年7月/8月)

質問: スタティック スクエアから、次のようなコールがあった。 「ヘッド スクエア スルー スリー、フェイス ライト アンド シングル ファイル プラマネイド 1／4 (Heads Square Thru Three, Face Right and Single File Promenade 1/4)」。ヘッドがスクエア スルー 3／4を終わったとき、ダンサーは、スクエアの中(In the Center of the Square)にいるか？それとも、一歩進んでスクエア セットを作ったときの位置にいるか？

回答: *現在の定義に従えば、ダンサーは、まだスクエアの中(訳者注:「2x4のスクエアの上で、外側には飛び出ていない。」としていたが、以下の2008年6月の回答でこれを訂正している。)にいる。*
しかし、以上の動きは、適切なコマンド タイミング(Command Timing)を考慮した以下のようなコールでも、行うことができる。
「ヘッド/サイド スクエア スルー スリー(Heads/Sides Square Thru Three (ビートの3又は、4で、 次の指示を出す。)
ボウス ターン ライト(Both Turn Right) ・・・・・フェイス ライト(Face Right)の代わりに。
そして、シングル ファイル プラマネイド 、アウトサイド 1／4 (Single File Promenade Outside 1/4)」と。

(2008年6月)

回答: *新しい「ベーシック・メインストリーム動作の定義」の総記(Genaral Section)にあるSquared Set Convention(スクエアセットの約束事 p.6)によれば、ダンサーは外に出てスクエアセットの上に位置している。*
(訳者注: これは、2008年6月の「動作の定義」の書き換えで、新しく加えられたSquare Set Conventionの第2項「Active ダンサーがInactive ダンサーと向き合わないで動作を終わった場合は、Active ダンサーはスクエアセットの位置に行く。」と矛盾が出ていたために、2005年7月/8月の質問に対して訂正が行われた。)

スター スルー (Star Thru)

(2002年11月/12月)

質問: 「リバース スター スルー(Reverse Star Thru)」と、コールするのは、妥当だろうか？

回答: **いいえ。** *アドバンスの定義の中で既に、「レフト スター スルー(Left Star Thru)」として規定している。また、変える必要もない。*
「リバース スター スルー(Reverse Star Thru)」という用語は、次の2点を、混乱させてしまう。

(イ) 女性が右手を、男性が左手を取って、男性がアーチの下を潜り、女性は男性の周りをまわる。 又は、

(ロ) ダンサーが、「スター スルー(Star Thru)」の動作を、「アンドゥ(Undo)」する(後戻りする)ように、働きかける。

「リバース(Reverse)」という言葉は、「後戻りをする。」という意味であり、メインストリーム プログラムの使い方でも、プラス プログラムの使い方でもない。

スウィープ ア クォーター (Sweep A Quarter)

(2000年1月)

質問: リサイクル(Recycle)の後に、スウィープ ア クォーター(Sweep A Quarter)をコールするのは？

回答: ***妥当だ。***

(2002年4月)

質問: 次の動作の後に、「スウィープ 1／4(Sweep 1/4)」を、コールするのは、いかがか？

(イ) 「スウィング スルー、 シングル ヒンジ、 スウィープ1／4 (Swing Thru, Single Hinge, Sweep 1/4)」？ **回答:** *不適当だ。*

(ロ) ツー フェイスド ライン(Two Faced Line)から、「ベンド ザ ライン、スウィープ 1 ／4 (Bend the Line, Sweep 1/4)」？ **回答:** *いいえ。*

(ハ) ツー フェイスド ライン(Two Faced Line)から、「キャスト オフ 3／4、スウィープ 1／4 (Cast Off 3/4, Sweep 1/4)」？ **回答:** *結構だ。(訳者注: 次の2005年7月/8月の質問に対する回答で、これを訂正している。)*

(ニ) 四人の、向かい合ったライン(Facing Line)から、「タッチ 1／4、スウィープ 1／4 (Touch 1/4, Sweep 1/4)」？ **回答:** *いいえ。*

(ホ) 「チェイン ダウン ザ ライン、スウィープ 1／4 (Chain Down The Line, Sweep 1/4)」？ **回答:** *いいえ。*

回答: *「スウィープ 1／4(Sweep 1/4)」は、定義で、始めの隊形を、「円弧の上を(右、又は、左へ)回転している、向かい合っているカップルズ(Facing Couples)」と、規定している。コーラーラブでは、カップルを「横に並びあって(サイド バイ サイド)、同じ方向を向いている二人のダンサー」と、絵でも見るように、規定している。つまり、上の(ハ)を除いては、皆、定義の条件を満たしていない。*

(2005年7月/8月)

2002年のARCの検討で、「五つの異なるコールの後に、「スウィープ 1／4 (Sweep 1/4)」をコールすることについて、次のようなケースを除いて、不適当と判断した。

ツー フェイスド ライン(Two Faced Line)から、次のようなコール、「キャスト オフ 3／4、 スウィープ 1／4(Cast off 3/4, Sweep 1/4)」をしたとき。

2002年の検討では、(ハ)の使い方は"妥当であった"と、議決していた。

質問: 「キャスト オフ 3／4、スウィープ 1／4 (Cast Off 3/4, Sweep 1/4)」は、妥当か？
ARCの検討結果を見直してほしい。

回答: ***不適当だ。****「スウィープ 1／4 (Sweep 1/4)」の定義を満たしていない。「キャスト オフ 3／4 (Cast Off 3/4) の動作は、エンズ ダンサーを回転軸(ピボット(Pivot))とする動作であり、要求されている<u>円弧上の回転動作ではない</u>。*

(2012年5月)

質問： 「外向きのラインズ(Lines Out Facing)」から、4カプル皆が、「スイープ　1／4(Sweep 1/4)」できるとして、「ウィール アンド ディール、スィープ 1／4 (Wheel and Deal, Sweep 1/4)」がコールされたが妥当なコールか？。

回答： *ARCの議決では、「スイープ 1／4(Sweep 1/4)」の定義によって、中央のカプルズだけが向かい合っていて、このコールを実行できる。」という事実にしたがって、これは**不適当だ**と判断した。 外側にいるカプルズは向かい合った(facing couples)カプルズではない。C-1の「コンセントリックの概念(Concentric Concept)」のもとでならば妥当だろう。*

質問： 「平行なトゥ フェイスト ラインズ(parellel Two Faced Lines)」から、4カプルズとも、「スィープ 1／4(Sweep 1/4)」ができるとして、「フェリス ウィール、スイープ 1／4(Ferris Wheel, Sweep 1/4)」がコールされた。妥当だろうか？

回答： *ARCでは、中央のカプルズしかこのコールを実行できないので**不適当**と議決した。中央のカプルズは向かい合っているが、外側のカプルズは向かい合っていない。C-1の「コンセントリックの概念(Concentric Concept)」のもとでは妥当だろう。*

タッグ ザ ライン (Tag the Line)

(2011年7月)

質問： オーシャン ウエイブ隊形から、「タッグ ザ ライン(Tag the Line)」とコールするのは正しいか？

回答： *これは**妥当だ**。なぜならオーシャン ウエイブは承認された図(訳者注：CALLERLAB Formation Pictograms (December 14, 2010)のこと)の＃76と77に示されたジェネラル ライン(General Line)に一致しているから。*

(注釈： オーシャンウエイブから上手(うま)く踊れない使い方が幾つかある。コーラーはこのことをダンサーに気づかせるべきだ。ボーディ フロー(Body Flow)、手の位置(Hand Positioning)、コールのタイミングなどが、このコールを成功させるのにとても重要である。)

(訳者注： CALLERLAB Formation Pictogram は、2007年8月25日付で。76 General Line と、77 General Lines が付け加えられた。 76：ジェネラル ライン(General Line) とは、「汎用ライン」とでも訳されるのだろうが、4人のダンサーが横一列に並んだ形で、個々の顔の向きは問わない(前か後ろ向きで、横向きはない)。10の組み合わせがある。また77：ジェネラル ラインズ(General Lines)は、ジェネラル ラインが二つ平行に並んだ隊形で、18通りの対象形がある。)

ティーカップ チェイン (Teacup Chain)

(2002年10月/11月)

質問： 「オール ロールアウェイ、 ヘッド メン センター、 ティーカップ チェイン(All Rollaway, Head Men Center, Teacup Chain)とコールするのは、妥当か？

回答： ***妥当だ**。定義でもはっきり、妥当だと述べている。当委員会では、「このコールを、ワークショップをしてから使うべきか？」についても検討したが、「何について、ワークショップをすべきか、否かについては、判断をしない。」ことで、合意した。*

（2009年7月/8月）

質問： 向かい合ったライン(Facing Line)から、誰がリードするかを指示した上で、「ティーカップチェイン(Teacup Chain)」をコールするのは妥当か？
これはコーラーラブの記述されたプラスの定義にかなっているか？

回答： ***妥当だ。*** *この使い方は、正順のライン(in-sequence lines)では、上手（うま）く機能する。が、逆順のライン(out-of-sequence lines)からでは、混乱する。中でスターを作った人が、次に誰の所に行くのか判断に迷う。*（訳者注：定義では、指示された人が中に入って右手スターを3／4回転回った後に、コーナーと左手回転を、指示されなかった人は右側のコーナーと右手回転・・・などと、コーナーと行う動作が規定されている。）

トレイド ザ ウエイブ（Trade the Wave）

（2011年7月）

質問： 「アラモ スタイル（Alamo Style）」から、「トレイド ザ ウエイブ(Trade the Wave)」とコールしても良いか？

回答： ***不適当だ。*** *この動きは、コーラーラブのプラスの定義を満たしていない。 ここには明らかなウエイブ（Wave）が存在しない。*

（2011年9月）

質問： 「ザー隊形（Thar Formation）」から、「トレイド ザ ウエイブ(Trade the Wave)」をコールしても良いか？

回答： *ARCはこの使い方は、コーラーラブのプラスの定義を満たしていないと明らかにした。 プラスレベルでは**不適当だ。***
だが、A-2プログラムでは、「オール エイト トレイド ザ ウエイブ（All Eight Trade the Wave）」とコールすれば良いのでは。

トレイド バイ（Trade By）

（2004年9月/10月）

質問： 「エンズ アウト インバーテッド ライン（Ends Out Inverted Line）」（エンズが外向き、センターズが中向き）のライン隊形で、「トレイド バイ（Trade by）」を、コールしたが？

回答： ***不適当だ。*** *定義では、「外を向いているカップルズがパートナー トレイド（Partner Trade）を、行う。」と、ある。質問の隊形では、外向きのエンズは、カプルズではない。*

（2006年7月）

質問： 3／4 タッグ隊形（3/4 Tag Formation）から、トレイド バイ（Trade By）をコールするのは、妥当か？

回答： ***はい。*** *ARCでは、オーシャン ウエイブ ルール（Ocean Wave Rule）を適用した正しい使い方だと判断した。*

トランスファー ザ カラム (Transfer the Column)

(2004年9月/10月)

質問: トランスファー ザ カラム(Transfer The Column)を、ダブル パス スルー隊形(Double Pass Thru Formation)からコールしたら?

回答: ***不適当だ。****定義で意図していることと矛盾する動きだ。*

(2008年6月)

質問: ダブル パス スルーが終わった隊形(Completed Double Pass Thru)から、「トランスファー ザ カラム(Transfer The Column)」が、コールされた。この使い方は、コーラーラブの記述されたA-1の定義に一致しているのか?

回答: ***不適当だ。****委員会は否と票決した。この使い方は、コーラーラブの記述されたどの定義にも従っていない。*

(2008年7月)

質問: ダブル パス スルーが終わった隊形(Completed Double Pass Thru)で、ゼロ アレンジメント(訳者注:カプルズが男女の順に並んでいる。)から、「ガールズ ピール オフ アンド トランスファー ザ カラム (Girls Peel Off and Transfer The Column)」とコールされた。
これは、コーラーラブの記述されたA-1の定義に合っているのか?

回答: ***いいえ。****委員会ではこの使い方は、正しくないと票決した。*
理由: *この使い方は、記述された定義に従っていない。女性がピール オフ(Peel Off)をした後には、もはや、元のカラム(Original Column) の4人が動くように記述されているカラムは存在していない。*

トリプル トレイド (Triple Trade)

(2006年7月)

質問: 3/4 タッグ隊形(3/4 Tag Formation)からの、トリプル トレイド(Triple Trade)は、妥当なコールか?

回答: ***はい。****三つの隣り合ったペアーを識別できるので、ARCでは妥当な使い方と判断した。*

(2006年7月)

質問: 二つのミニ ウエイブ(Mini Wave)の間にあるオーシャン ウエイブ(Ocean Wave)から、トリプル トレイド(Triple Trade)をコールするのは、妥当か?

回答: ***はい。****ARCでは、三つの隣り合ったペアーを識別できるので、この使い方も妥当な使い方であると認知した。*

ズーム(Zoom)

(2000年1月)

質問: 1/4 タッグ隊形(1/4 Tag Formation)から、 ズーム(Zoom)をコールするのは妥当だろう

か？

回答： ***いいえ。***

（2006年7月）

質問： ダブル パス スルー隊形（Double Pass Thru Formation）から、センターズ ズーム（Centers Zoom）をコールするのは、妥当か？

回答： ***不適当だ。****当委員会では、不適当と判断した。コーラーが、「全員に対してズーム」をさせたいのなら、単に「ズーム（Zoom）」のコールで良い。中央のダンサー（Centers）を「通り抜け（Pass Thru）」させたいなら、コールは単純に「パス スルー（Pass Thru）」と、すべきだ。コーラーが、「センターズ ズーム（Centers Zoom）」とコールしながら、中央のダンサー（Centers）の通り抜け（Pass Thru）を期待しているのなら、ダンサーをだます（Trick）試みであり、失敗は目に見えている。当委員会では、どのレベルのプログラムでも、この種のコールを使わないよう強く勧める。*

以上